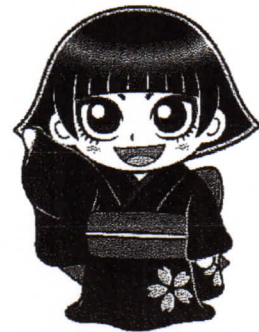


# 佐倉市青少年相談員連絡協議会

## 佐倉市の特色

佐倉市は千葉県北部、下総台地の中央部に位置し、都心から40キロ、成田空港へは東へ15キロの距離にあります。市の北部には印旛沼が広がり、都市と自然のバランスのとれた住みよい街です。人口は175,575人（2014年3月31日現在）で、小学校23校、中学校11校のほか、高校が4校、短大1校と若者の姿も多く見られます。

佐倉市の見どころには、印旛沼のほとりに建つオランダ風車リーフデや、春に開催されるチューリップ祭り、佐倉市民音楽ホールにある手回し式のオランダ製ストリート・オルガンなど、オランダに関するものが多くあります。これは、江戸幕府の要職を務めた幕末の佐倉藩主堀田正睦が、蘭学や医学を積極的に取り入れたことにちなみます。また、江戸時代の佐倉について書かれた「古今佐倉真佐子」という近世の書物に、夜な夜な城内の杉戸の絵から抜け出し遊んでいるおかつぱ頭の子どもが書かれています。築城400年を記念して、現代によみがえったのが、「カムロちゃん」で、子どもたちをはじめ市内外からの人気を集めています。



佐倉・城下町400年記念キャラクター  
カムロちゃん

## 青少年相談員活動の特色 ～活動の移り変わり～

### 【信頼でつながる青少年相談員活動】

佐倉市の青少年相談員は、自治会からの推薦で、青年団や婦人会などの団体の方々を中心に、昭和38年10月1日、63名で発足しました。1期目の任期は2年でした。この頃の相談員活動について、第2期から第7期までの18年間にわたり相談員を務め、第7期の会長でもあった石渡国男さんに、当時の様子を伺いました。

「この地域でやれるのは君しかない」、相談員になるきっかけについて、そう区長に告げられたと語る石渡さん。当時の相談員は、25歳から40歳の人の中から地区で1人選出することになっており、区長の推薦により石渡さんは24歳という若さで、相談員を引き受けたと当時を振り返ります。相談員の活動について、現在も続く「たこあげ大会」は当時からも取り組まれていたとのことで、佐原から講師を招き、「彦一風」を作製し、大会に先立ち、各地区でたこ作り講習会も行っていたそうです。大会は、今のように整



5期(S51.1.25)たこあげ大会

備されていなかったものの、広々とした岩名運動公園であげていたとのことで、たこあげ大会にて空に舞う、子どもたちの風、そのひとつひとつに50年の歴史が感じられます。たこあげ大会の他に、ソフトボールやミニバスケットも行ってたそうです。ソフトボールは野球人気が高かったことから、多くのチームが出場し、石渡さん自身も地区のチームの監督として、子どもたちを率いることになりました。市の大会の後には印旛郡でも大会があったそうです。当時、搾乳の運搬を行っていた石渡さんは「私が仕事を休めないときは妻に代わりに車を出してもらい、子どもたちを引率してもらったこともある」と、家族ぐるみで相談員活動に取り組まれていました。



7期(S56.12)たこ作り教室

子どもたちとの関わりの中で、「ソフトボールでは子どもたちに『監督!』なんて呼ばれてね、それで今度の大会に優勝

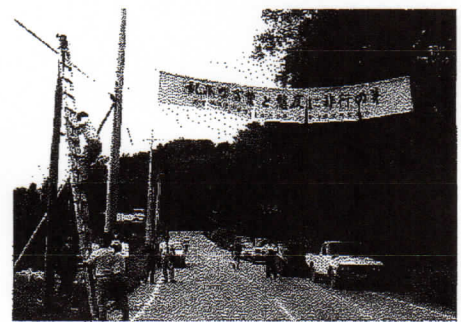
したらソバ食わせてよ！なんて言うものだから、優勝はしないだろうと、軽く返事をしたら、本当に優勝してしまっただけでね。大変な思いをしましたよ。当時14、5人にソバを食べさせるのは大変でした。」と、当時の子どもたちの顔を思い出しながら笑顔でお話されていました。当時の子どもたちといっても、もう60代にもなる方々から、今でも地区の集まりなどで監督と呼ばれ、昔の話に花が咲くことがあるそうです。

当時の苦労については、即座に「ないですね」の一言。当時は子どもたちの中にリーダーがいて、子どもたちの人数が多かったけど、とてもまとまっていたとのこと。また、相談員同士も気心が知れた仲間という雰囲気があり、苦労をした記憶はないそうです。相談員として心掛けられてきたことは、「法に背くようなことをする相談員では、子どもたちを指導する者としての示しがないですからね。」と子どもたちのお手本になるようにと意識されていたとのこと。石渡さんは、相談員を退かれた後、青少年育成市民会議や少年補導員を務めるなどされ、現在も少年指導員をされています。青少年相談員をきっかけに多くの人とつながり、今もなお、青少年に思いを寄せていらっしゃる様子が伺えました。

### 【地域とつながる青少年相談員活動】

第7期から第10期（第10期会長）にわたり相談員を務められた今中久明さんにお話を伺いました。今中さんは、それまでの地域での活動が評価され、地域に推され相談員となったそうです。当時の行事としては、ソフトボール大会とミニバスケット大会、たこあげ大会とそれに備えたたこ作り講習会を行っていたとのこと、それに加え、現在も行われている綱引き大会はこの頃に始まったとのこと。

今中さんが相談員を務められた時代は、第2次ベビーブームの子どもたちが児童、生徒であった頃で、子どもたちの人数がとて多い時代でした。それでも相談員が一致協力して事業に当たり、子どもたちのためならと、相談員も地域も一体となって応援してくれていたそうです。地区活動としては、住民会議と連携して、地域の学校から非行防止を訴える標語を募集し、手作りの横断幕を設置していました。風が吹く日などの管理がとて大変だったと当時の苦労を振り返ります。ちょうど今中さんの息子さん世代が、現在の相談員の世代であることから、次の時代を担う相談員にエールを送られていました。



非行防止標語の横断幕設置 (S58)

### 【人とつながる青少年相談員活動】

青少年相談員をやるきっかけは子どもと遊んでいけばいいという軽い気持ちからでした。私は青少年相談員をやる上で特段苦勞したことも工夫したこともなく、ただ子どもたちと遊んでいるだけでしたが、気が付けば6期も経ってしまい、今となっては自分が一番の古株になってしまいました。子ども達の環境は変わりつつありますが、より賑やかに、人と接することが出来る相談員活動ができればいいと考えています。

第16期～17期会長 大栗孝広（第13期～現在）



16期(H22.3.22)綱引き大会

## 【これからの取り組み】

### 【子どもたちと向き合う相談員を目指して】

子どもたちを取り巻く環境は、その時代その時代で大きく違うかもしれませんが、子どもたち自身が持っている可能性は、50年前の子どもたちも、50年後の子どもたちも、無限大だと思っています。相談員として大きな目標を掲げるよりも、今この時を共にする子どもたちと、どれだけ本気になって向き合っていくかが課題であり、それには近道などありません。私たちの活動を通して、ふと気付いたら一緒に笑っていた子どもたちが、未来の相談員になってくれたら最高です。

第18期佐倉市青少年相談員連絡協議会 会長 爲田 浩